

2023年 3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月7日

上場会社名 アビックス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7836 URL http://www.avix.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)廣田 武仁
 問合せ先責任者 (役職名)取締役副社長 (氏名)桐原 威憲 (TEL)045-670-7720
 四半期報告書提出予定日 2022年11月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	1,307	157.4	20	76.1	△55	—	△57	—	△73	—
2022年3月期第2四半期	508	13.5	11	33.2	△3	—	△7	—	△15	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 △69百万円 (—%) 2022年3月期第2四半期 △14百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△2.10	—
2022年3月期第2四半期	△0.60	—

(注) 2022年3月期第2四半および2023年3月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	2,321	1,411	60.5
2022年3月期	2,474	1,481	59.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 1,404百万円 2022年3月期 1,477百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	2,800	55.8	170	604.0	20	—	16	—	10	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期2Q	35,129,566株	2022年3月期	35,129,566株
2023年3月期2Q	—株	2022年3月期	—株
2023年3月期2Q	35,129,566株	2022年3月期2Q	25,293,500株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社において判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因の変化により、これら業績見通しとは異なる結果となることを御承知の上、投資判断を下される様お願い致します。業績予想の前提となる仮定等につきましては、添付資料P. 2「1.当四半期決算に関する定性的情報、P. 3(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の緩和等により、個人消費や設備投資が持ち直すなど、回復基調となりました。一方でウクライナ情勢の長期化による資源価格の高騰や、日米の金利差拡大による急激な円安など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは感染リスクの低減を確保しつつ、「デジタルサイネージ業界No. 1」の達成に向けて積極的な拡大策を展開してまいりました。具体的には、当社グループの主要サービスである「MiRAi PORT」において、デジタルサイネージによる利用者の属性分析サービス「Ai Insight」の提供を本格的に開始するなど、既存サービスであるCMS（コンテンツマネジメントシステム）だけではなく、サイネージプラットフォームとしての多機能化を推進してまいりました。また、デジタルマーケティングにおける新たな取り組みとして、デジタルサイネージや新サービスに関するウェビナーを開催するなど、顧客との接点を増やし、的確なマーケティングの実現に注力いたしました。このような取り組みの効果に加え、代理店との連携強化や総合演出力を活かした新規マーケットの開拓の成果が表れ、第2四半期に入りスタジアムなどのスポーツ施設や飲食や小売業界の大型チェーン店、大型商業施設への展開など売上高は大きく増加いたしました。しかし、サイネージマーケットの拡大に伴う競合参入による価格競争や急激な円安進行による仕入価格高騰が利益を圧迫したことにより、第1四半期の営業損失を賄うには至りませんでした。

これらの結果、売上高1,307,831千円（前年同期比157.4%増）、営業損失55,480千円（前年同期は3,672千円の営業損失）、経常損失57,774千円（同7,101千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失73,919千円（同15,158千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。また、セグメントごとの業績は次のとおりであります。

①デジタルサイネージ関連事業

デジタルサイネージ関連事業は3部門あり、機器リース部門は主にデジタルサイネージのリース、運営部門はデジタルサイネージ向けを中心とした販促支援サービス（コンテンツ配信等のソフト面でのサービスやメンテナンスの他、新たな販促支援サービス）の提供、情報機器部門はデジタルサイネージの製造・販売を行っております。上述した拡大策の継続により、更なる案件獲得を目指してまいります。

以上の結果、デジタルサイネージ関連事業は、売上高1,265,530千円（前年同期比173.2%増）、セグメント損失53,805千円（前年同期は4,448千円のセグメント損失）となりました。

②Value creating事業

デジタルプロモーション株式会社が運営している、Value creating事業につきましては、自ら運営するハイパーローカルメディア「タウンビジョン」や地元密着の記者、各種SNSサービスの活用やターゲットユーザーに響くコンテンツ（記事、動画）制作により、地域での企業のPR、ファン作り、集客からブランディング、また地方自治体の魅力あるコンテンツ開発など地域に係るエリアファンマーケティング（地域密着型マーケティング）を行っております。当事業はいわゆるサブスクリプションサービスが中心であり、今後も安定的な成長を目指してまいります。また、将来的に当社グループの基幹事業とするべく、今後も人員の増強等、積極的な投資を行ってまいります。

以上の結果、Value creating事業は、売上高42,300千円（前年同期比8.0%減）、セグメント損失1,675千円（前年同期は776千円のセグメント利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産は、2,321,168千円（前連結会計年度末比152,919千円の減少）となりました。その主な要因は、現金及び預金が減少したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、909,480千円（前連結会計年度末比83,112千円の減少）となりました。その主な要因は、1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金が増加したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、1,411,687千円（前連結会計年度末比69,807千円の減少）となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金が減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の業績予想につきましては、2022年5月13日に発表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	874,674	294,426
受取手形	26,302	74,848
売掛金	487,015	556,909
商品及び製品	72,766	187,182
仕掛品	2,022	13,138
原材料	8,086	4,950
前渡金	83,860	249,204
その他	17,247	20,051
貸倒引当金	△374	△452
流動資産合計	1,571,601	1,400,259
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	23,255	22,061
車両運搬具(純額)	1,071	893
工具、器具及び備品(純額)	34,909	69,518
レンタル資産(純額)	10,863	8,647
リース資産(純額)	37,958	30,500
有形固定資産合計	108,059	131,622
無形固定資産		
のれん	705,501	651,919
その他	26,810	40,168
無形固定資産合計	732,311	692,087
投資その他の資産	62,115	97,199
固定資産合計	902,486	920,908
資産合計	2,474,087	2,321,168
負債の部		
流動負債		
買掛金	164,878	224,988
1年内返済予定の長期借入金	277,710	244,667
未払法人税等	12,246	13,194
賞与引当金	28,734	26,629
その他	125,821	131,572
流動負債合計	609,390	641,052
固定負債		
長期借入金	355,672	242,447
その他	27,530	25,981
固定負債合計	383,202	268,428
負債合計	992,593	909,480

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,207,564	1,207,564
資本剰余金	617,740	617,740
利益剰余金	△348,057	△421,977
株主資本合計	1,477,246	1,403,327
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	746	1,175
その他の包括利益累計額合計	746	1,175
非支配株主持分	3,501	7,184
純資産合計	1,481,494	1,411,687
負債純資産合計	2,474,087	2,321,168

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	508,137	1,307,831
売上原価	261,344	894,466
売上総利益	246,792	413,365
販売費及び一般管理費	250,465	468,845
営業損失(△)	△3,672	△55,480
営業外収益		
受取利息	5	604
受取配当金	68	111
為替差益	—	953
その他	44	323
営業外収益合計	118	1,992
営業外費用		
支払利息	3,408	4,246
その他	139	39
営業外費用合計	3,547	4,286
経常損失(△)	△7,101	△57,774
特別利益		
保険解約返戻金	14,597	—
新株予約権戻入益	1,072	—
特別利益合計	15,670	—
特別損失		
役員退職慰労金	23,355	—
特別損失合計	23,355	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△14,786	△57,774
法人税、住民税及び事業税	248	5,965
法人税等調整額	—	6,496
法人税等合計	248	12,461
四半期純損失(△)	△15,034	△70,236
非支配株主に帰属する四半期純利益	123	3,683
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△15,158	△73,919

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純損失(△)	△15,034	△70,236
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	309	428
その他の包括利益合計	309	428
四半期包括利益	△14,725	△69,807
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△14,849	△73,490
非支配株主に係る四半期包括利益	123	3,683

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△14,786	△57,774
減価償却費	15,448	22,634
のれん償却額	—	53,582
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△173	78
受取利息及び受取配当金	△73	△715
賞与引当金の増減額 (△は減少)	14,409	△2,105
支払利息	3,408	4,246
新株予約権戻入益	△1,072	—
売上債権の増減額 (△は増加)	238,130	△117,210
棚卸資産の増減額 (△は増加)	93,698	△122,396
仕入債務の増減額 (△は減少)	△164,247	58,751
前渡金の増減額 (△は増加)	393	△102,070
その他	△17,712	△71,298
小計	167,422	△334,277
利息及び配当金の受取額	73	715
利息の支払額	△3,379	△4,127
法人税等の支払額	△496	△3,247
営業活動によるキャッシュ・フロー	163,620	△340,936
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△661	△34,290
有形固定資産の取得による支出	△6,418	△43,112
無形固定資産の取得による支出	—	△6,722
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,080	△84,125
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△148,268	△146,268
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△10,000	—
リース債務の返済による支出	△9,763	△8,917
財務活動によるキャッシュ・フロー	△168,031	△155,185
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△11,491	△580,247
現金及び現金同等物の期首残高	907,349	874,674
現金及び現金同等物の四半期末残高	895,857	294,426

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		調整額 (注1)	合計
	デジタル サイネージ関連	Value creating		
売上高				
外部顧客への売上高	463,152	44,985	—	508,137
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,400	1,000	△3,400	—
計	465,552	45,985	△3,400	508,137
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△4,448	776	—	△3,672

(注) 1 セグメント売上高の調整額△3,400千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

3 セグメント利益又はセグメント損失(△)には、適当な配賦基準によって、各報告セグメントに配賦された
た全社費用を含んでおります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		調整額 (注1)	合計
	デジタル サイネージ関連	Value creating		
売上高				
外部顧客への売上高	1,265,530	42,300	—	1,307,831
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,680	—	△1,680	—
計	1,267,210	42,300	△1,680	1,307,831
セグメント損失(△)	△53,805	△1,675	—	△55,480

(注) 1 セグメント売上高の調整額△1,680千円は、セグメント間取引消去によるものであります。

2 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

3 セグメント損失(△)には、適当な配賦基準によって、各報告セグメントに配賦された全社費用を含んで
おります。